



名古屋都市センター
Nagoya Urban Institute

News Letter

ニュースレター

2022.9 vol.122



久屋大通の街並みの中に、存在感を表す建設中の中日ビル

特集◎ 誕生間近、栄に2棟の超高層ビル！

街並みが大きく変わります。

調査研究

令和3年度研究成果報告会を開催しました

まちづくり支援

都市センターが行うまちづくり活動助成のメニューが増えました！

まちづくり来ぶらり

名古屋ことば

今号から「歴まち」コーナーが仲間入り



誕生間近、栄に2棟の超高層ビル！

街並みが大きく変わります。

新中日ビルの外観イメージ 北西から
低層部（1～7階）は旧ビルのエッセンスを踏襲した外装デザイン
多目的ホール入口には天井画の一部が壁画として移設予定
高層部（24～32階）はロイヤルパークホテルズアンドリゾーツ運営のハイグレードホテル



栄のパノラマを堪能できる屋上庭園



工事中の低層部

栄地区のさらなる 魅力向上へ向けて

尾張徳川の城下町から近代都市へと発展する名古屋で、にぎわいの中心を担ってきた歴史ある繁華街「栄」。商業施設が立ち並び、東西・南北の目抜き通りの広小路や大津通、ビジネス・金融街の錦通、戦災復興事業で整備された100m道路の久屋大通などの歩道空間をはじめ、老舗百貨店の集積や高度成長期にかけ開業した栄の地下街、まちのシンボルとなるテレビ塔（2021年5月より、「中部電力 MIRAI TOWER」に名称変更）やオアシス21などは栄の活気を物語るものです。

時は流れ、国内外の交流機会の拡

大が進む中、魅力ある圏域の形成に向けた都市間競争がますます激しさを増しています。そのような傾向は、「リニア中央新幹線」の開業によって、より一層強まることでしょう。このリニア中央新幹線の開業を追い風ととらえ、大都市圏の中核となる名古屋都心部の魅力向上をさらに進めていくために、名古屋市は2013年、「栄地区グランドビジョン～さかえ魅力向上方針～」を策定しました。名古屋市はこのビジョンを基に、民間による再開発を促進するためのルールづくりを行い、それをもとに新たな開発を誘導し、栄地区のさらなる魅力を創出しようとしています。2020年に大きな話題となった、名古屋テレビ塔のリニューアルと久屋大通（北エリア・テレビ塔エリア）の再生も

この一環です。そして今、栄の中心で進む二つの再開発事業が注目を集めています。

思い出の中日ビルが生まれ変わる

1966年に竣工した中日ビルは、半世紀にわたり栄を代表するビルとして親しまれてきました。遠くからでも目を引いた屋上の回転展望レストラン、エントランスの鮮やかなモザイク天井画、中日劇場、文化センター・・・懐かしき思い出する名古屋市民も多いでしょう。今、2024年春の開業をめざして「中日ビル建て替え計画」が進んでいます。

新中日ビルは、旧ビルの愛称「中日ビル」を新ビルの正式名称に決定し、親しまれた旧ビルの記憶と遺産を継承し、地下5階、地上33階建ての超高層



天井画「夜空の饗宴」矢橋六郎氏作



外観



ツイッター投稿の写真
「#中日ビル建築中」に都市センターも投稿。金山南ビル11階からの風景

（仮称）錦三丁目25番街区計画のシンボルタワーイメージ
（三菱地所提供）



ビルに生まれ変わります。高層部にはハイクレードなホテル、中・低層部には久屋大通やテレビ塔を一望できる屋上広場、多目的ホールなど、オフィス・商業施設に加えて、交流と発信を誘う新たな仕掛けを盛り込むことで、多くの人たちが楽しみ、憩い、働き、集う複合ビルをめざしています。地下鉄栄駅から続く地下街とビルは今まで通り接続され、歩行者ルートのバリアフリー化を図りながら中区役所方面はじめ栄のまちへの回遊性を高めます。

また、最先端の耐震技術を導入した建物は、災害時に約1000人の帰宅困難者を受け入れ、地域の安心を確保します。

工事が進み日に日に高くなっていく中日ビルの注目度の高さがうかがえたのがSNSの投稿。Twitterの中日ビルアカ

ウントが「中日ビルを撮影したら『#中日ビル建築中』でツイートして」と呼びかけたところ続々と投稿が。その盛り上がりは想像以上で、さすが、半世紀にわたって親しまれた中日ビルへの人々の愛着が伝わってきます。名古屋都市センターのアカウントも金山から見える風景を投稿しました！

栄広場跡地の新しいランドマーク

もう一つ、まさに栄の真ん中、イベント等でにぎわいを生み出してきた「栄広場」跡地に計画されているのが「（仮称）錦三丁目25番街区計画」です。本計画は三菱地所等5社で推進され、2026年夏の開業をめざしています。コンセプトは「名古屋の新たなランドマークとなる国内外の文化・交流価値創造拠点」。地下4階、地上41階の

ビル内にホテル、オフィス、栄初のシネコン、商業施設の4用途が集積し、ホテルは米ヒルトンのラグジュアリーブランド「コンラッド・ホテルズ&リゾーツ」が進出します。栄の新たな顔として、国際的かつ広域的な訴求力を生み出し、栄エリアの都市機能強化をめざしています。

二つの再開発事業は、栄のまちを一層活性化させることが期待されています。中日ビルの前面にある久屋大通南エリアでは、有識者懇談会より提言を受け「久屋大通（南エリア）再整備プラン」の策定が始まろうとしています。エリアごとに特色を持つ栄地区。回遊性を高め、つながりあって、栄のさまざまな魅力を発信する。新しい時代の先駆けとなる2棟の超高層ビルから、緑豊かな街並みを眺める日が待ち遠しいですね。

レガシーを継承して、新たな存在感を放つビルへ

旧中日ビルは、53年間多くの方に親しんでいただき、一定世代以上には思い出とともに存在するビルだと思います。それを建て替える時、ゼロからスタートするか、今までの中日ビルのイメージを引き継ぎながら最新のビルにするのか議論しました。結論として「レガシーの継承」は必要であると考え、旧ビルのエッセンスを残しながら建て替えることが、今回のプロジェクトの最大の目標となりました。特に外観、低層部のデザインは旧ビルを彷彿とさせるもので、「あ、前の中日ビルと同じだね」と感じてもらえると思います。

経済的な地盤沈下が言われますが、街の魅力は店舗数や売上だけではありません。栄は「面」の街として回遊する楽しさがあります。緑があって、公園があって、回遊できるのが栄の魅力。その「面」の一角に位置するビルとして再開発が進む新しい栄地区に少しでも貢献できるよう努力してまいります。

中部日本ビルディング株式会社
新中日ビル準備室
取締役室長 市村 俊光さん



令和3年度研究成果報告会を開催しました

名古屋都市センターでは、名古屋のまちづくりや都市計画行政の課題を先取りし、その解決の糸口を提示するため、学者や行政機関等とともに、幅広い観点からの調査研究を実施し、その内容は、毎年、成果報告会や当センターHP等で公表しています。

昨年度は、ホール内の工事と感染症拡大防止のため報告会の開催を見送りましたが、今回は、参加人数を制限しながらも、7月7日(木)にセンター11Fのホールで報告会を開催することができ、行政関係者をはじめ、大学の先生や市民の皆様にご参加頂く中で、昨年度にとりまとめた5つの調査研究内容を報告しました。



令和3年度研究成果報告会の様子

研究 1

VR活用による意見聴取を通じた ウォーカブル※なまちづくり ～金山をフィールドとして～

国が作成した3D都市モデルのデータを使用して金山の一部区間のVRを作成し、それを活用したアンケート調査から好まれる歩行空間デザインを導出しました。

※ウォーカブル…歩きたくなる



VRを活用して具体化した
金山の一部エリア

研究 2

港湾エリアにおける土地利用変化を 踏まえた今後のまちづくり

名古屋港の後背エリアの土地利用の変化をGIS※を用いて調査することにより、開発の進展が期待できる地区を抽出するとともに、抽出した地区の今後のまちづくりに繋がる施策を提案しました。

※GIS…コンピュータ内に地理情報を取り込み、それを活用するシステム



地区の回遊性を創出するため、松重ポンプ所に滞留機能を付加し、歴史的資源として保存することを提案

研究 3

高齢者の外出促進に向けた スマートモビリティ共創まちづくり

「パーソナルモビリティ※」にICT※を連携した「スマートモビリティ」を活用することにより、高齢者の外出機会を促進するための方策について検討しました。また、研究会当日は本研究にご協力いただいた名古屋大学准教授の浦田先生にもお越しいただきました。

※パーソナルモビリティ…町中での近距離移動を想定した1～2人乗りの小型電動コンセプトカーなどを指す次世代自動車

※ICT…通信技術を活用したコミュニケーション



浦田先生と研究者



パーソナルモビリティを
使った現地調査の様子

研究 4

災害に強い行政機能・官庁機能の あり方に関する研究 ～三の丸地区をフィールドとした、 広域大規模災害対策のあり方～

広域大規模災害時における官庁建物の課題と、組織間の連携などの課題を明らかにし、災害に強い行政機能・官庁機能のあり方と、広域大規模災害に備えた将来的な三の丸地区のあり方を提案しました。



フェーズフリー（平時にも有事にも機能）な官庁建物のイメージの図（名古屋都市センター作成）

研究 5

名古屋におけるシビックプライド※醸成に 関する研究 ～都市の形成過程に着目して～

名古屋の都市形成過程に着目し、その歴史性をシビックプライド醸成につなげることを目的に、かつての都市軸であった本町通を対象として、その再生の方向性と実現に向けた取組みを提案しました。

※シビックプライド…都市に対する市民の誇り



本町通の再生に向けた提案



都市センターが行うまちづくり活動助成のメニューが増えました！

従来のスタートアップ部門に加え、昨年度まで名古屋市で行っていた地域まちづくりの活動助成が仲間入りしました。令和4年度の助成団体は、下記のとおり総計17団体です。

団体づくり助成

【スタートアップ部門】

- ふれあいガーデニングクラブ
- BLUE BASE
- フェーズフリーな防災企画チーム（平時と有事をワンセット）
- ほうせいだんちーず
- 子育て応援団体名古屋はぴま(happy mothers)
- 名古屋外国語大学オープンスペースデザイン研究会
- ニシヤマイバショラボ
- 大門DIVE!実行委員会
- 気軽にすけっと
- 名古屋水域研究会
- 片平学区子育て支援ネットワーク連絡会
- ハビサンBooks

成長支援 / 実践活動助成

【PR助成】

- 大曽根まちそだて会議

【組織基盤強化助成】

- 金山駅前まちそだて会

【構想づくり活動助成】

- 藤が丘まちづくり協議会
- 名駅東花車・船入地区まちづくりの会
- かんであらmonzen亭

まちづくりの構想って何？

まちの将来像や方向性のこと。これをつくることで、まちに関わる色々な人が、同じ目標に向かって活動でき、まちが活性化します。

どうやって作るの？

まちの色々な人の意見を聞いて作ります。例えば、まちづくり団体等が考える「まちの将来像や方向性」を地域に伝えて意見を聞き、練り直す。これを繰り返して、地域の合意形成を経て、構想をつくっていきます。

PICK UP!

構想づくり活動助成



◎名駅東花車・船入地区まちづくりの会 会長 鶏飼 功さん

名古屋駅から徒歩圏内にある私たちの活動地域は、オフィス・店舗・住居・社寺などが混在していて、それぞれの立場における課題や想いも多岐にわたる街です。どなたでも参加いただける勉強会やマルシェを開催し、地域の皆さんと一緒に「住んでよし、働いてよし、楽しんでよし、のまちづくり」を目指した構想をつくっていきたいです。



◎片平学区子育て支援ネットワーク連絡会

子どもが自由に遊ぶ「プレーパーク」の地域開催にあたり、まずは講演会で、子どもの遊びと育ちについて学習。



◎大門DIVE!実行委員会

地元の人以外は入りにくいお店を楽しむツアーを開催し、地域と人を繋ぐキッカケ作り。



◎ニシヤマイバショラボ

本を借りたり、交換できるイベントを開催。本を介して、訪れた方々と会話が生まれていました。

各団体、令和4年度の活動、着々と始まっています！

名古屋のまちづくりについてもっと知りたい！そんなあなたに



機関誌アーバン・アドバンス No.78 「地域主体のまちづくり」発行

アーバン・アドバンスは、まちづくりに関わる方々の論文、名古屋のまちづくり情報、名古屋都市センターの研究成果などを掲載しています。

78号のテーマは「地域主体のまちづくり」です。住民による地域主体のまちづくりやコミュニティ活動は、子育てや福祉、災害時の助け合いなど、住みやすいまちの要素として欠かせません。このような中、名古屋における地域主体のまちづくりについて、研究者やまちづくり団体等の最新の知見や取り組みについて取り上げました。



※本誌は名古屋都市センター12階のまちづくりライブラリーにて販売(定価700円)しております。(令和4年9月末発行予定)

まちづくりライブラリー
全国に誇るまちづくりの専門図書館です。名古屋市の戦災復興に関する資料や都市計画関連図をはじめ、都市計画概要などの行政資料や研究機関の調査研究報告書なども収集しています。

名古屋ことば

地域の言葉は歴史を反映し、その土地の文化を表しているものです。名古屋のことばには「上町言葉」「下町言葉」「武家言葉」があることをご存知でしょうか。現在、使われているのは下町言葉で、上町言葉と武士言葉を日常生活で耳にすることはほとんどありません。

かつて名古屋の上町言葉は「京言葉」、大阪の「船場言葉」と並び日本三大美語と言われていました。名古屋でいう上町というのは、名古屋城の南に碁盤割に区画された街のことです。武家屋敷に接し北は外堀、南は広小路通り、東は久屋大通り、西は堀川沿いの御園通りに囲まれた一画で、清須越以来の格式ある商人たちの店が立ち並んでいました。日常生活の中で上級武士との交流が常にあった上町商人たちは、ゆったりとした柔らかさの中に敬語や謙譲語を多用する独特の言葉を生み出しました。この名古屋の経済と文化の中心となった地域に育った言葉が「上町言葉」です。

芥子川律治 (1971) によれば、こんなやり取りが記録されています。

「ごめんあすばせ」

「おいであすばせ」

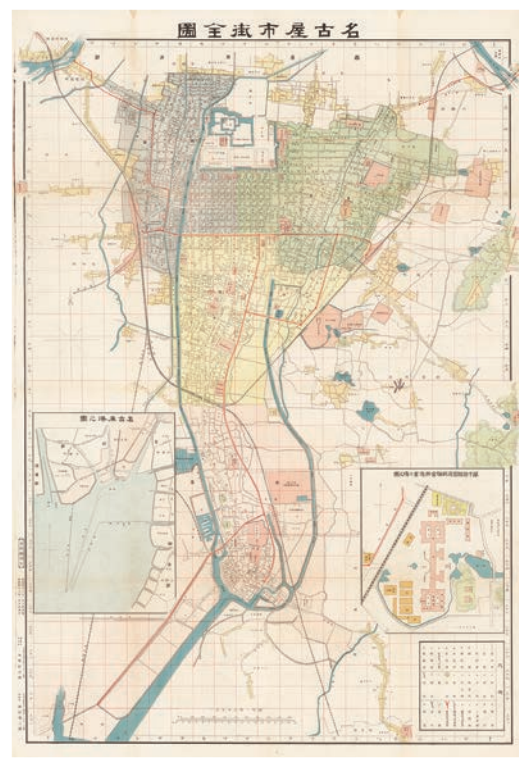
「まあ、しばらくでござりましたなも」

「えりあーいまあ、やっとお目にかかりませんでしたなも」

「さあ、ここまでおあがりあそばいてちょうであーいあすばせ」

なめらかで品よく、敬語である「あそばせ」を重ねるなど物言いはとても丁寧です。この言葉は昭和期まで引き継がれましたが、名古屋大空襲による戦災、新たな都市計画による地域社会の変化を経て、次第に聞かれなくなっていました。

言葉は作られるもの、そして変わっていくものです。



「名古屋市街全図」明治43年

SNSなど各種メディアの普及、人の移動などでその移り変わりはさらに早くなっているかもしれません。名古屋ことばの温かさは未来に残って欲しいものです。

さらに詳しく知りたい方は、こちら

◆参考文献◆

『名古屋方言の研究』(Sd-ケ)

『名古屋言葉辞典』(Sd-ヤ)

『名古屋弁トキントキン講座』(Sd-フ)

『愛知県のことば』(Sd-エ)

※()内はまちづくりライブラリーの請求記号です。

図書紹介

『名古屋で見つける化石・石材ガイド』

著者：西本昌司 著
出版社：風媒社
請求記号：Se-2

普段通り過ぎている名古屋の街は、ビルや地下街など特徴的な石材に覆われているのをご存知ですか。化石、大理石の模様の違い、海外産の石の結晶などに注目して名古屋の街を見てみましょう。地球や街の歴史が刻まれていることがわかってくると街の景色が違ってみえてくるかもしれません。この本で発見してみませんか。



『DX(デジタルトランスフォーメーション)の第一人者が教えるDX超入門』

著者：石澤直孝 著
出版社：宝島社
請求記号：Oe-1

「超入門」というタイトルが表しているように、DXについて難解な専門用語の解説などは登場しません。DXの基礎的な説明、また使いこなす方、そしてうまく利用して仕事を効率化する発想や働き方など、デジタルの技術をあくまで道具として位置づけて、日々の生活や仕事にどのように役立てるかといったことを考察します。



『日本建築史講義 木造建築がひもとく技術と社会』

著者：海野 聡 著
出版社：学芸出版社
請求記号：la-ウ

東京大学で行った「都市建築史概論」「日本建築史」「日本住宅建築史」の講義35時間分の内容をそのまま構成した本です。日本史の成果による社会的背景、発掘調査で得られる考古学的な知見、美術史の観点など建築に限らず、幅広く日本建築史の理解を深めることができます。



1



この秋、中川運河に足をお運びください

中川運河「にぎわいゾーン」の魅力向上を目指し、中川運河を舞台とする市民活動・創造活動につながるアートに助成する、ARToC10(アートックテン)。令和4年度の対象事業に加え、令和2、3年度の対象事業のうち新型コロナウィルスの影響により延期となっていた事業も含め、様々なアート事業が行われています。

アート事業のスケジュールは
こちらからチェックしてください



ARToC10はラストイヤー

平成25年度から始まったARToC10は、令和4年度で最終年度を迎えます。過去のアート事業はウェブサイトでご覧になれます。

※ARToC10は、リンナイ株式会社からの寄附を活用しています。

2

名古屋都市センター 第2回まちづくりスキルアップ講座 「まち・組織を変える～変革の極意～」 受講者募集!

組織や地域を変えたいと思っているけど、その「変え方」をスキルとして学んだことがある人は少なく、試行錯誤して苦労していることでしょう。前向きな人ほど、挫折してしまうこともあります。

本講座ではそんな方のために、誰も教えてくれなかった「変える」スキルを、楽しく学びます。

【日 時】 11月13日(日)

【会 場】 名古屋都市センターホール

【詳細及び申込】ウェブサイトでご確認ください



講師：一般社団法人会議ファシリテーター普及協会
釘山健一氏&小野寺郷子氏

3

ライブラリー新機能のお知らせ

まちづくりライブラリーのホームページが新しくなりました。

蔵書検索はどなたでもご利用いただけます。また当館にご登録のある利用者は、IDとパスワードでログインすることにより、オンラインで利用状況照会が可能です。

《ログインするとできること》

1. パスワードの登録・変更
2. メールアドレスの登録・変更
3. オンライン予約
4. 貸出状況の確認
5. 予約状況の確認
6. 貸出延長申請(条件あり)
7. ライブラリーからの伝言の確認

ご利用についての詳細はまちづくりライブラリーにお問い合わせください。新しくなったまちづくりライブラリーHPをぜひご活用ください。



まちづくりライブラリー
ホームページ





養成講座の様子

歴まちびと養成講座

歴史的建造物の保存・活用の専門家を育てる、なごや歴まちびと養成講座を開催しました。今回が第4回目の開催で、これまでに92名の方が受講をされ、75名の方が歴まちびと登録をされ活躍しています。



旧加藤商会ビル



旧豊田佐助邸



旧春田鉄次郎邸



歴まちくんとおとも

「歴まち」とは、

名古屋市長官邸に基づく登録・認定地域建造物資産の指定やその所有者からのいろいろな相談への対応（名古屋歴史的建造物保存活用推進員「通称：歴まちびと」派遣）や「歴まちびと」養成講座の開催、歴史的建造物を使ったイベントなどへの助成（歴まちづくり活動助成）や歴史的建造物の活用管理を行っています。

名古屋市長官邸歴史まちづくり PR キャラクターの**歴まちくんとおとも**ともどもよろしくお願いいたします。

歴まちづくり活動助成

1) 歴史的な近代建築を彩る テーブルコーディネート講座

景観重要建造物に指定されている旧春田鉄次郎邸のレストラン「デュボネ」で、「歴史的な近現代建築物を保存活用する会」によりテーブルコーディネート講座が行われました。建築家「武田五一」設計の大正モダンな室内と相性抜群のイベントでした。

2) 枳中・歴史・探検・発見

枳中商店街組合が地域の魅力を知っていただくために、学童を対象にした「枳中アワード」を実施しました。



テーブルコーディネートの様子



枳中アワードの展示

管理活用中の歴史的建造物

- ・旧加藤商会ビルは、現在タイ料理の「サイアムガーデン」が入店しています。
- ・旧春田鉄次郎邸は、建物の一部にフレンチレストランの「デュボネ」が入店しています。
- ・旧豊田佐助邸は旧春田鉄次郎邸の一部と合わせ無料開放され、火・木・土曜日は東区ガイドボランティアによるガイド見学ができます。

公益財団法人 名古屋まちづくり公社

名古屋都市センター
Nagoya Urban Institute

〒460-0023

名古屋市中区金山町一丁目1番1号 金山南ビル

TEL 052-678-2208

FAX 052-678-2209

<http://www.nup.or.jp/nui/>

ISSN:1341-6820



利用案内◎どなたでもご利用いただけます。

【11階】まちづくり広場
(展示スペース・ホール・喫茶コーナー)

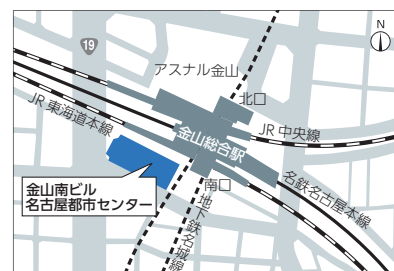
【12階】まちづくりライブラリー

火～金曜日：10:00～18:00

土・日曜日・祝休日：10:00～17:00

※休館日：月曜日（祝休日の場合はその翌日）、
年末年始

まちづくりライブラリーは、
上記のほか第4木曜日、特別整理期間も休館



SNS
やっています！

